

新年のごあいさつ

活気にあふれた 魅力あるまちづくりを目指して

佐渡市長 高野 宏一郎



新年あけましておめでとうございませす。市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた清々しい新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年の夏は、記録的な猛暑が連日続き、熱中症の被害が続出する事態となり、農産物へも大きな影響がありました。特に市内のコシヒカリの1等米比率は約25パーセントと過去最低となりました。また、お盆を直撃した佐渡汽船のカーフェリー故障は、島民をはじめ帰省客や観光客に大混乱を招くとともに、その後の佐渡観光にも大きな打撃を与えたのも記憶に新しいところで

す。一方、佐渡金銀山のユネスコ世界遺産暫定リストへの単独記載や、トキの3次放鳥も無事終了するなど、明るい話題もありました。

また10月に名古屋で開催されたCOP10（生物多様性条約第10回締結国会議）の自治体国際会議で日本を代表して環境と経済の両立について「朱鷺と暮らす郷づくり認証米制度」を例に発表し、佐渡の事例が脚光を浴びました。佐渡市の誕生以来、「エコアイランド佐渡」を前面に施策を展開してきましたが、認証米の成功が全国的に知名度を上げ、「環境の島」を世界に発信することができました。

今後は話題の生物多様性の概念を確固たるものに強め、ブランド力を磨き上げ、トキツーリズムなどトキや離島を活かした交流を促進するなど他の産

業への波及を図ります。

その環境のシンボルと言えるトキにおいては、今年こそ自然界でのヒナ誕生のニュースが35年ぶりに聞けるものと楽しみにしています。また、今後は金銀山や小木海岸に代表される日本を代表する地質遺産が、世界のジオパークに認定されることを目指し、現在準備を進めているところです。世界遺産と世界ジオパークの連携による相乗効果に期待を寄せています。

さらに佐渡ならではの薫り高い文化や歴史、伝統、芸能などに焦点をあて、守り、活かし、佐渡全体のブランド力を高めることにより、「活気あふれる新しい島づくり」の実現を目指してまいります。

合併を果たして今年には8年目を迎えるようとしています。現在は合併特例期間で一時的にゆとりのある財政状態の中にありますが、2、3年後には一括算定の期限が切れ、厳しい状況が予想されることから、引き続き佐渡市将来ビジョンに沿って効率的な行政運営、スリムな行政組織体づくりなど、徹底した行財政改革を進めながら、次世代が安心して住める、魅力あるまちづくりに全力で取り組んでまいります。皆さまのより一層のご理解とご協力をお願いいたします。

今年が市民の皆さまにとりまして、幸多く素晴らしい年となりますことを心から祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。